

令和8年1月28日

相馬方部衛生組合管理者
相馬市長 阿部 勝弘 様

公立相馬総合病院経営強化プラン評価委員会
委員長 只野 裕一

令和6年度「公立相馬総合病院経営強化プラン」進捗・達成状況点検評価報告書

令和7年10月6日、12月2日及び令和8年1月28日に委員会を開催し、公立相馬総合病院経営強化プラン(以下「経営強化プラン」という。)の令和6年度における進捗状況及び達成状況について点検評価を実施したので、その結果を次のとおり報告します。

記

1 令和6年度公立相馬総合病院事業決算状況(消費税抜額表示)

令和6年度公立相馬総合病院事業の収益的収支決算は、病院事業収益3,742百万円、病院事業費用4,328百万円となり、差引き586百万円の純損失を計上した。

この決算状況を経営強化プランにおける令和6年度の収支計画と照合すると、病院事業収益については、収入見込額4,006百万円に対し実績額が264百万円下回った。また、病院事業費用については、支出見込額4,062百万円に対し実績額が266百万円上回った。その結果、収支計画との比較では合計530百万円の悪化となり、最終的に586百万円の純損失を計上するに至ったものである。

なお、経営強化プランの収入・支出見込額と実績額との主な乖離理由は、次のとおりである。

(病院事業収益)

- (1) 医業収益のうち入院収益は2,011百万円を見込んでいたが、入院患者一日当り単価は見込額を1,181円上回ったものの、入院延患者数が見込数を6,799人下回ったことから、257百万円の減収となった。
- (2) 医業収益のうち外来収益は1,218百万円を見込んでいたが、外来患者一人当り単価は見込額を36円上回ったものの、外来延患者数が見込数を9,471人下回ったことから、109百万円の減収となった。
- (3) 特別利益のうちその他特別利益については、資金需給がひっ迫したことから構成市町より特別負担金を受けた結果、100百万円の増収となった。

(病院事業費用)

- (1) 医業費用のうち医師職員を含む職員給与費は 2,153 百万円を見込んでいたが、看護職員給与費が支出見込額を上回ったこと等により、190 百万円の増加となった。
- (2) 医業費用のうち経費は 636 百万円を見込んでいたが、委託料及び光熱水費等が支出見込額を上回ったことから、34 百万円の増加となった。
- (3) 医業費用のうちその他医業費用は 11 百万円を見込んでいたが、固定資産除却費が支出見込額を上回ったことから、23 百万円の増加となった。

2 経営強化プラン数値目標の実績

- (1) 経営強化プランに設定した令和 6 年度医療機能等指標及び経営指標の目標値並びに実績値は、次のとおりであった。

① 医療機能等指標

	6 年度 (目標値)	6 年度 (実績値)	比 較
救急患者受入数 (人)	6,500	5,695	▲805
新規入院患者受入数 (人)	3,360	3,138	▲222
手術件数 (件)	870	873	3
リハビリ実施数 (単位)	19,300	18,298	▲1,002
紹介患者数 (人)	3,150	2,928	▲222
逆紹介患者数 (人)	3,250	2,922	▲328
臨床研修医採用数 (人)	6	6	—
地域医療研修受入数 (人)	5	2	▲3

② 経営指標

	6 年度 (目標値)	6 年度 (実績値)	比 較
経常収支比率 (%)	98.7	84.0	▲14.7
医業収支比率 (%)	88.8	74.4	▲14.4
修正医業収支比率 (%)	85.8	71.8	▲14.0
資金不足比率 (%)	0.0	4.9	4.9
1 日当たり入院患者数 (人)	123.8	105.2	▲18.6
1 日当たり外来患者数 (人)	423.0	384.0	▲39.0
入院患者 1 日当たり収益 (円)	44,500	45,681	1,181
外来患者 1 人当たり収益 (円)	11,850	11,886	36
病床利用率 (%)	75.5	64.1	▲11.4

職員給与費に対する修正医業収益比率 (%)	64.7	78.9	14.2
診療材料費に対する修正医業収益比率 (%)	10.7	12.5	1.8
薬品費に対する修正医業収益比率 (%)	11.4	12.8	1.4

(2) 指標ごとの数値目標未達成要因

経営強化プランに設定した医療機能等指標及び経営指標について、令和6年度の目標値を達成できなかった主な要因は、次のとおりであった。

① 医療機能等指標

医療機能等指標については、手術件数は目標値を上回ったものの、各指標算定の基礎となる入院患者数及び外来患者数が経営強化プランにおける見込患者数を下回ったこと等により、多くの指標において数値目標を達成することができなかった。

② 経営指標

ア 経常収支比率

経常収支比率は目標値を14.7%下回った。これは、医業収益において入院収益及び外来収益が減少したことに加え、医業費用において職員給与費及び経費が増加したこと等により、目標値を達成できなかったものである。

イ 医業収支比率

医業収支比率は目標値を14.4%下回った。これは、医業収益において入院収益及び外来収益が減少したことに加え、医業費用において職員給与費及び経費が増加したこと等により、目標値を達成できなかったものである。

ウ 修正医業収支比率

修正医業収支比率は目標値を14.0%下回った。これは、医業収益において入院収益及び外来収益が減少したことに加え、医業費用において職員給与費及び経費が増加したこと等により、目標値を達成できなかったものである。

エ 一日当たり入院患者数

一日当たり入院患者数は目標値を18.6人下回った。これは、内科、外科、整形外科、小児科及び泌尿器科において、いずれも経営強化プランにおける見込患者数を下回ったことにより目標値を達成できなかったものである。

オ 一日当たり外来患者数

一日当たり外来患者数は目標値を39.0人下回った。これは、内科、整形外科、小児科及び皮膚科等において、受診患者数が経営強化プランにおける見込患者数を下回ったことにより目標値を達成できなかったものである。

カ 病床利用率

病床利用率は目標値を11.4%下回った。これは、内科、外科、整形外科、小児科及び泌尿器科において、経営強化プランにおける見込患者数を下回ったこと等により目標値を達成できなかったものである。

キ 修正医業収益比率

(a) 職員給与費

職員給与費に対する修正医業収益比率は目標値を14.2%上回った。これは、指数算定上の分子となる職員給与費が増加したこと及び分母となる医業収益が減少したことにより目標値を達成できなかったものである。

(b) 診療材料費

診療材料費に対する修正医業収益比率は目標値を1.8%上回った。これは、指数算定上の分子となる診療材料費の増加したこと及び分母となる医業収益が減少したことにより目標値を達成できなかったものである。

(c) 薬品費

薬品費に対する修正医業収益比率は目標値を1.4%上回った。これは、指数算定上の分子となる薬品費が増加したこと及び分母となる医業収益が減少したことにより目標値を達成できなかったものである。

3 点検評価の総括

点検評価に先立ち、事務局から別添【資料1】により令和6年度「公立相馬総合病院経営強化プラン」の取組状況について説明を受けた。

また、別添【資料2】により経営強化プランの着実な実施を図るため設置された経営強化プラン推進委員会の3部会（経営改善部会、病院機能強化部会、患者サービスの向上・働き方改革部会）において、令和6年度に実施した改善活動の実績について説明を受けた。

次に、これらの取組状況等の説明を踏まえ、各委員から提起された病院事業に関する意見及び改善を望む事項等に対する、病院としての対応方針等については、別添【資料3】のとおりであった。

以上の審査過程を経て、令和6年度経営強化プランの進捗状況及び達成状況について慎重に審査した結果、当委員会としての点検評価意見は、次のとおりである。

令和6年度においては、入院・外来患者数は、実績では前年度と比較して概ね横ばいであったものの、経営強化プランに定める目標値とは乖離が生じており、令和6年度の医療機能等指標及び経営指標に係る数値目標のほとんどが達成されなかった。

収益的収入については、構成市町から特別負担金による追加支援を受けたものの、目標患者数に対して実績数が大きく下回ったことから264,245千円の減収となった。一方、収益的支出については、人件費の上昇及び物価高騰等の影響により、目標値を265,733千円上回る費用増となった。その結果、当年度純損失は、目標値を大きく上回る赤字決算となり、経営状況は一段と深刻化していると言わざるを得ない。

公立相馬総合病院は、相馬地方の基幹病院として、救急医療や地域医療の確保など地域にとって極めて重要な役割を担っており、地域住民が安心して利用できる医療サービスを継続的に提供することが求められている。公立病院を取り巻く厳しい環境の中、地域医療を安定的に維持していくため、「経営強化プラン推進委員会」の各部会活動を中心に、経営強化プランに定める各種施策について病院職員が一丸となって取り組み、患者サービスの向上および経営体質の強化に一層努めることを強く望むものである。

加えて、点検評価に際して各委員から出された意見・要望等についても、今後の病院運営方針の決定に当たり、十分留意されたい。